



か
ご
し
ま

N
I
E
実
践
校

与論中（与論町）

大川内小（出水市）

「見出しの価値」学ぶ

相手に伝える力養う

実践校4年目は読解力、表現力の育成に力を入れた。3年生は見出しがテーマ。新聞の見出し部分を隠し、クイズ形式で受け方を学んだ。担当の浜島恵美子教諭(41)は、「端的に内容を示す難しさ、見出しの価値を教えたかった」と話す。

記事を読み、印象に残ったテーマに関連した本を探し、互いに紹介するといった授業もある。こちらは話を養う目的だ。ほかに

研究実践の初年度。月1回の「NIEタイム」を設け、①新聞に親しむ低学年

②興味、関心を持つ中学年
③複数紙の同じ記事を読み自分の考えと比べる高学年
—を目標にした。

高学年は、1面のコラムを読み、見出しをつける取り組みも。大事な言葉を見つけ、文章が訴えようとする内容を要約する練習になるという。担当の田尾久美子教諭(44)は「自分の考えを相手に伝える力が向上し

てきた」と手応えを感じている。

国語以外でも新聞を活用する。低学年の外国語活動では、英語で発音された色を見つけるゲームの教材としてカラー紙面を使った。

三原一樹校長は「問題集、参考書の代わりに新聞を使ってもいい。情報を得るだけのツールにとどめるのはもったいない」。新聞を身近な教材として幅広く活用する計画だ。

(吉永亮治)

も、命の大切さを学んでもらおうと、教員らが選んだ関連記事を朝の読書時間に校内放送で流している。

県最南端の与論島は新聞が夕方に届くため、生徒たちはテレビやインターネットで情報を得ることが多い。しかし、新聞を読む習慣も着実に浸透しているよ

うだ。1年の内野優佳さんは「いろいろな情報が載っていることが魅力。文章を書くときの参考にもなる」と語った。

(緒方隆)